

1.研究主題

(1) 研究テーマ

「言葉による見方・考え方を働かせる授業づくり」

～「書く」ことを通した豊かな語彙の獲得を目指して～

(2) テーマ設定の理由

＜本校の現状から＞

昨年度から「書くこと」を意識した授業づくりに取り組んできたことにより、児童は書くことの抵抗感が減り、意欲的に書く姿が見られるようになってきた。また、語彙の獲得に力を入れてきたことから言葉に興味をもって書いたり話したりする様子も見られる。タブレットの共同閲覧の活用により、様々な意見にふれることを楽しむ学級文化が育ってきた。児童は自分の思いを表出することに抵抗感が減り、推敲などの取り組みが容易になったことにより、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。

しかし、言葉に興味をもつようにはなったが、語彙の獲得という点においては、まだ言葉の力が弱く、言葉の意味理解ができていなかったり、言い換えができなかったりする。目指している他教科や生活面に活かす、というところまでは至っていない。また、書くことに苦手意識がある児童も少なくない。児童用の校内アンケート「書くことは好きか」という項目において、肯定的な意見を持つ児童は7割程度にとどまったところからもそれが分かる。さらに、学力テストの結果において、国語や算数の条件付き記述問題では、記述量が多いものの正答率は高くない。ある条件の中で考えをまとめて書くことの定着のために、校内での系統立てた取り組みが必要であると考えられる。

一方、教師側は、研究テーマを共通認識できていたことと、「書くこと」を意識した授業づくりを行うことができた。（教員アンケートでは95.3%）また、授業を行う上で語彙の獲得を目指した授業づくり・教材研究を行うことが、児童だけでなく教師自身の言葉の力をつけるものになったという意見も聞かれた。さらには、語彙の解釈を国語用語などにも広げて、授業づくりの中で国語科の研究を深められた教員もいた。また、ICTについても様々な場面で活用が広がった。

しかし、基本的な授業形態（めあてを立てる・板書する・ICTを活用する・意見を共有する・ふりかえりを書くなど）が十分に確立されていないことで、授業づくりに苦勞しているという意見が聞かれた。また、ICTの活用は進んでいるものの、共同閲覧をすることにとどまるクラスもあり、効果的な活用までには至っていない。さらに、書くことの捉え方が教師の中で統一されていなかったり、語彙や学習用語、単元のゴールの系統性などを意識した取り組みもできていなかったりする。書けない児童への手立てについても課題が見られた。

2.研究の進め方

(1) 研究の重点

1.国語科を中心とし、「書くこと」を通して、使える語彙力を高める

授業の中で定着しつつある「書く」ことを通して、さらに語彙の量を増やす授業づくりを行っていく。自分の考えを書くだけでなく、板書を写したりタブレットで文字入力をしたりすることも「書くこと」とし、児童が意欲的に書くことを楽しめる授業づくりを目指す。また、自分の考えを明確にしたり、場面や条件に応じた表し方を吟味したり、学習の成果を表現したりする場を設定し、テーマに迫っていきたい。また、国語科で研究を進めていくが、どの教科でも「書くこと」を取り入れ、身に付けた語彙の力が他教科でも汎用されているか検証をしていく。

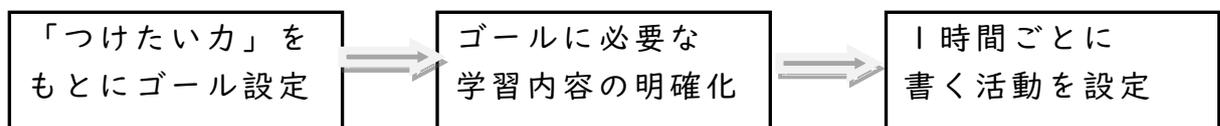
なお、「語彙を豊かにする」とは、意味を理解している語句の数を増やすだけでなく、話や文章の中で使いこなせる語句を増やすことである。また、語句と語句の関係、語句の構成や変化などへの理解を通して、語句の意味や使い方に対する認識を深めて語彙の質を高めることである。そのことを共通認識の上で研究を進めていく。

2.授業力と学級力を高める

よい授業をしていくためには、よい学級づくりが不可欠である。そのため、よい授業をするための手立ての一つとして学級力を高めていく。特別支援の視点も取り入れながら基本的な授業フレームを示したり、効果的なICTの活用について提示したりする。

(2) 授業づくりの手立て

①単元の組み方



②書く活動の取り入れ方

- ・どの場面で（導入で、意見交流の前に、授業の最後に）
- ・何のために（考えを整理するために、気づきを残すために、振り返るために）
- ・何を（自分の考えを、学習して分かったことを、次時への課題を）
- ・どのように（箇条書き、キーワード指定、書き出し指定、文字数指定、タブレットの活用、思考ツールの活用、ノート、ワークシートなど）

③「言葉の宝箱」の活用

- ・タブレットのメモアプリに入れる。紙での取り組みも可能。
- ・教室掲示をする。

④ふりかえりのひな形を提示（笹中校区 小中連携による取り組み）

低・中・高での系統立てた形を掲示し、授業で活用する。

低学年

- ①できたこと・できなかったこと・わかったこと・わからなかったこと
- ②はっけんしたこと・おどろいたこと・こころにのこったこと
- ③もっとしりたいこと・もっとがんばりたいこと

中学年

- ①学んだことのまとめ
- ②学習後の自分の考え
- ③学習のとり組み方（発表・ノート・話し合いなど）
- ④気づき・ぎもん・もっと知りたいこと

高学年

- ①学んだことのまとめ
- ②最終的な自分の考え
- ③学習の取り組み方（発表・ノート・話し合いなど）
- ④気づき・疑問・もっと知りたいこと

⑤ICTの活用

- ・話を聞くときはタブレットのふたを閉じる
- ・キーボード入力の取得
- ・鉛筆で書くことと、タブレットに書くことの使い分け

(3) 指導案の書き方 別紙参照

(4) 校内研の取り組み

- ・学期ごとに1日設定（今宮先生招聘）
- ・1日に2学年実施

1, 2時間目 1学年（全学級）

3, 4時間目 1学年（全体研究授業学年）

5時間目 1クラス（全体研究授業）他クラス下校

- ・3学年が全体研究授業(大授業)を行う
- ・指導案を検討する場に、研究担当と研究部、希望者が参加する。

(5) 研究授業を学びの場にする手立て

- ・子どもの学びの姿を見取る
- ・子どもの表情が確認できる場所で見取る
- ・文字言語で記述したものから見取る

(6) 研究の評価

- ・指導案・全体研究授業
- ・学校評価アンケート（教師、児童、保護者）に、研究テーマに関連する項目を設ける
- ・学力テストの記述問題の正答率

3. 講師 今宮 信吾 先生（大阪大谷大学 教育学部教育学科 教授）

4. 研究計画

(1) 年次計画

- ・ 1年次（令和4年度）
研究テーマを共通理解し、教材研究と授業実践に重点を置いた研究を進める。
- ・ 2年次（令和5年度） 本年度
教材研究に力を入れ授業実践を深め、成果と課題の確認と検証をする。
- ・ 3年次（令和6年度）
1.2年次の授業実践をまとめ、研究発表会を行う。
成果と課題を検証し、次年度の方向づけを行う。

(2) 年間計画

4月19日(水)	研究全体研修会	研究推進部
6月8日(木)	校内研究授業	授業6年生
6月22日(木)	第一回全体研究授業	大授業6年
8月21日(月)	夏季研修会	今宮先生講話
8月22日(火)	笹中校区合同研修会	
9月20日(水)	校内研究授業	中授業5年
9月26日(火)	第二回全体研究授業	大授業4年 中授業3年
1月19日(金)	第三回全体研究授業	大授業 2年、中授業 1年
2月28日(水)	研究全体研修会	研究推進部

5. 授業力向上の取り組み

(1) 他教科研究授業

- ・ コンサルタントを招聘し、指導案や授業についての助言をいただく。
- ・ 教師同士で授業を見合う場にしていくため、年度当初に授業者と日程を決定する。
- ・ 授業力の研鑽の場とするため、どの教科でも可とする。
- ・ 1年間に1度は、授業研究もしくは他教科研究で授業公開をする。
- ・ 教職5年目以下の教師は必修。それ以外は希望制にする。

(2) 対話型ミニ講座

- ・ 授業のことや学級経営のことなど、気軽に学び合える教師集団を目指した取り組みとする。年度当初に学びたいことや、講師として伝えたいことをアンケートで集約して行う。